

---

# ixMark.

アプリ版 ゴミ箱機能(trashbox)利用マニュアル

## ゴミ箱機能(trashbox)について

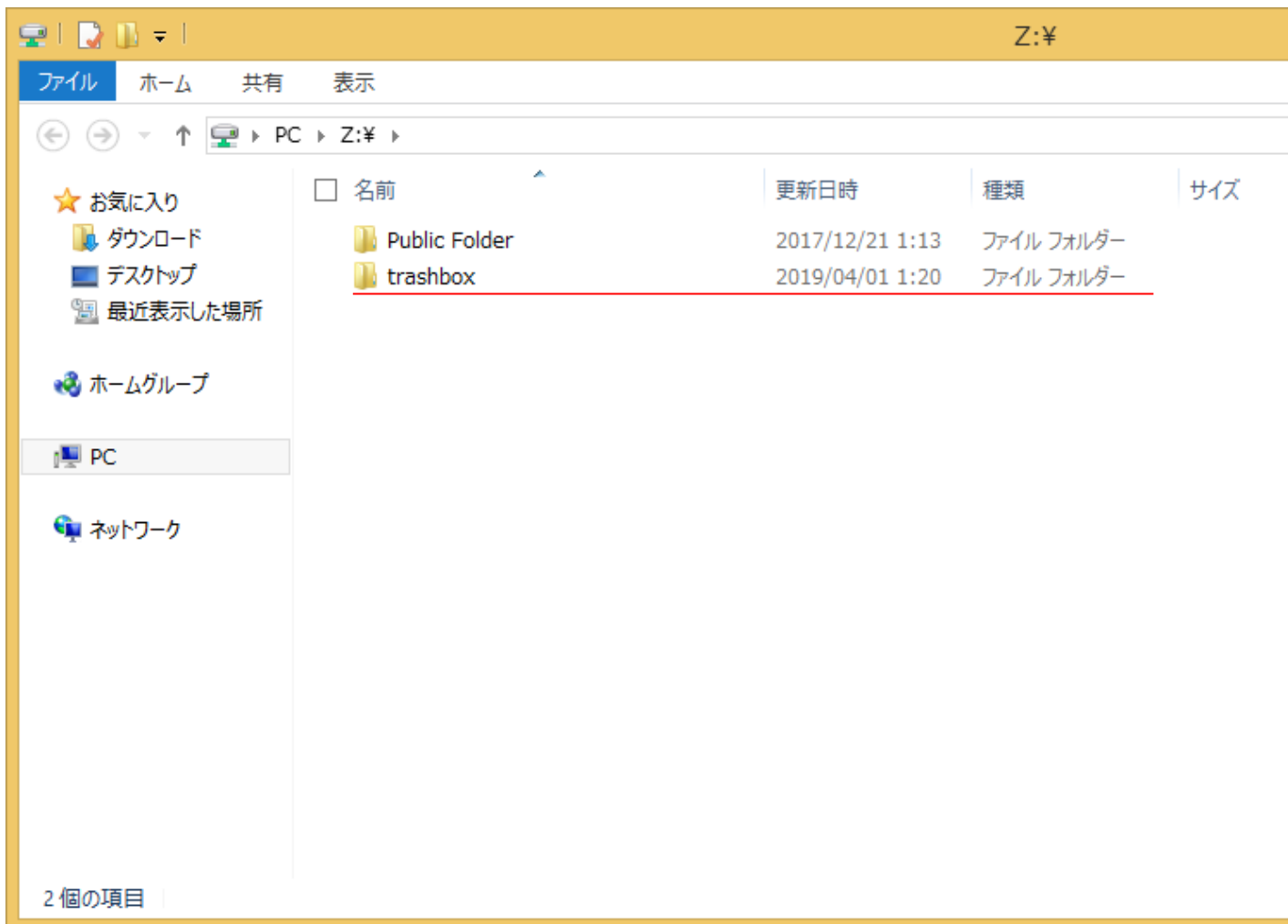
### 動作環境

当機能はアプリ版の ixMark のみの機能となります。Web 版、スマホ版では動作しません。

### 利用方法

アプリ版ご利用の場合、標準の機能となります。

ファイル、フォルダの削除時に自動でゴミ箱(フォルダ名:trashbox)フォルダが生成され、ファイル、フォルダの削除を行った際に生成されたフォルダに保管されます



## 主な機能

### ■ ファイルの削除時に一時的な保管

ローカルマシンのゴミ箱機能と同じように、削除したファイルがユーザのホームディレクトリに生成された「trashbox」フォルダに保管されます。保管しているファイルを削除することで完全な削除になります。

### ■ 削除したフォルダの復旧

今までは誤って削除してしまった場合はバックアップから復旧していましたが、本機能より復旧が可能になりました。

## 注意点

機能のご使用にあたって、以下の点にご注意ください。

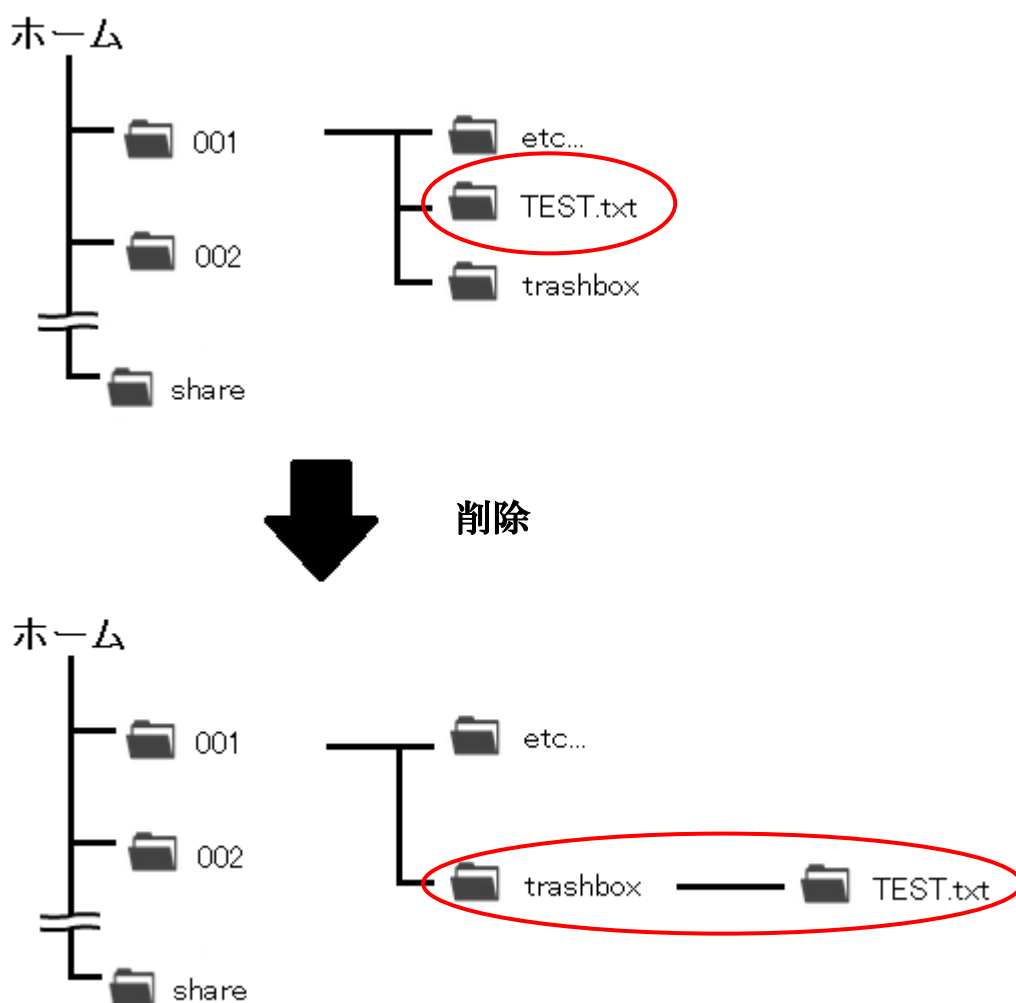
- ・ 削除し保管されたファイルは実データとなります。容量や内容は元データと同じものの為、使用量の増加にご注意ください。
- ・ 保管されるのは削除を実行したもののみになります。  
上書き保存などで消えてしまったファイル等は保管されません。

## trashbox フォルダについて

データの削除を行ったユーザのホームフォルダに「trashbox」というフォルダが生成され、削除したデータが保管されます。

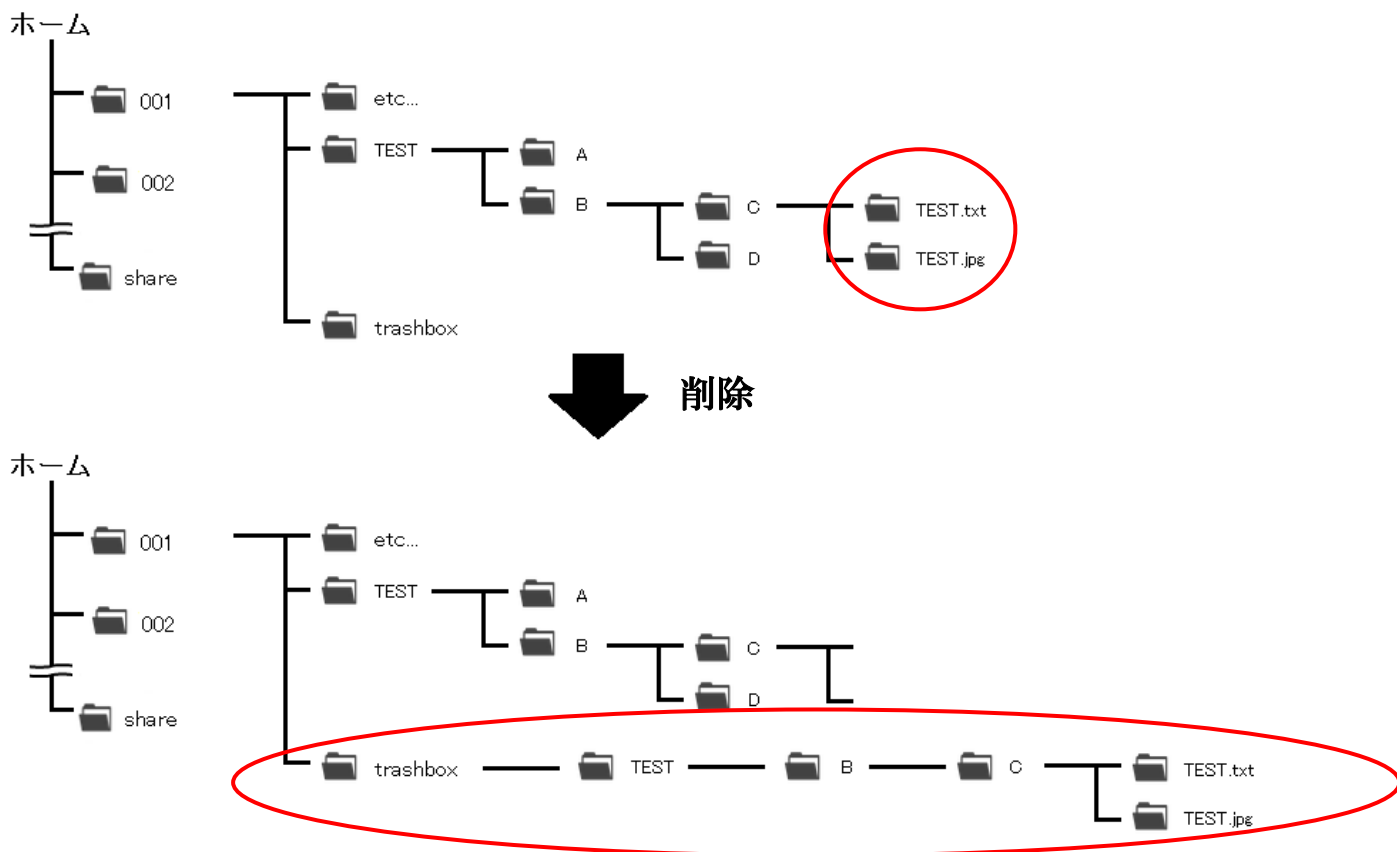
誤ってデータ削除を行ってしまった場合、「trashbox」内からデータを元の場所に戻す事で復旧する事ができます。

※ データが保管されている状態の「trashbox」フォルダを削除した場合は、全てのデータが削除されます。



## 複数階層下のファイル削除について

複数のフォルダ階層下のファイル削除を行った場合、  
下図の様にユーザのホームフォルダから、削除対象のファイル間のフォルダ階層が「trashbox」内に再現されます。

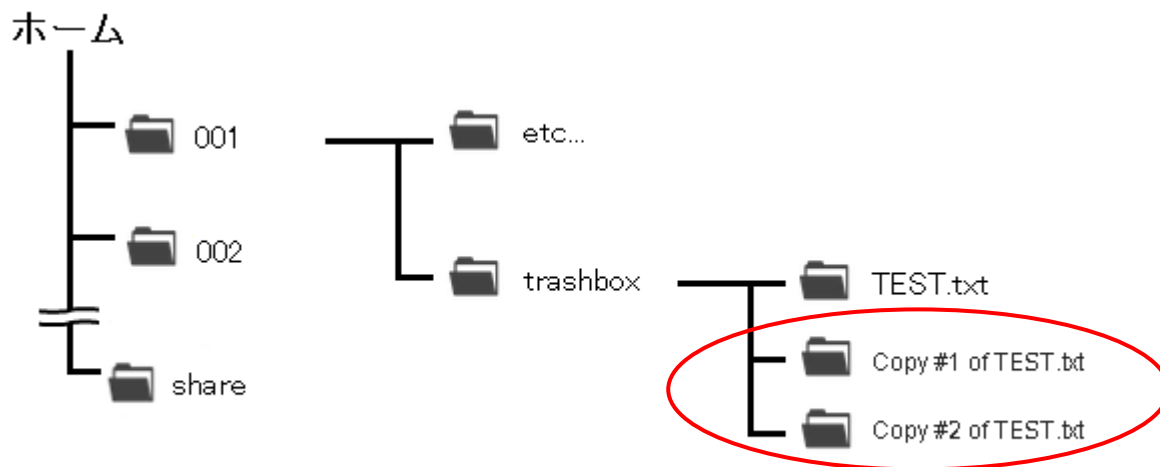


## 同名 & 同種ファイルの削除について

削除したファイルと同一名 & 同種類のファイルが「trashbox」内の同じディレクトリに既にある場合、新しく削除したファイルのファイル名が下記のように変更され、双方のファイルが保持されます。

◆ Copy # 「番号」 of 「ファイル名」 「拡張子」

下図では「trashbox」内に TEST.txt が存在する状態で、TEST.txt を「001」フォルダ内で2回削除した結果になります。

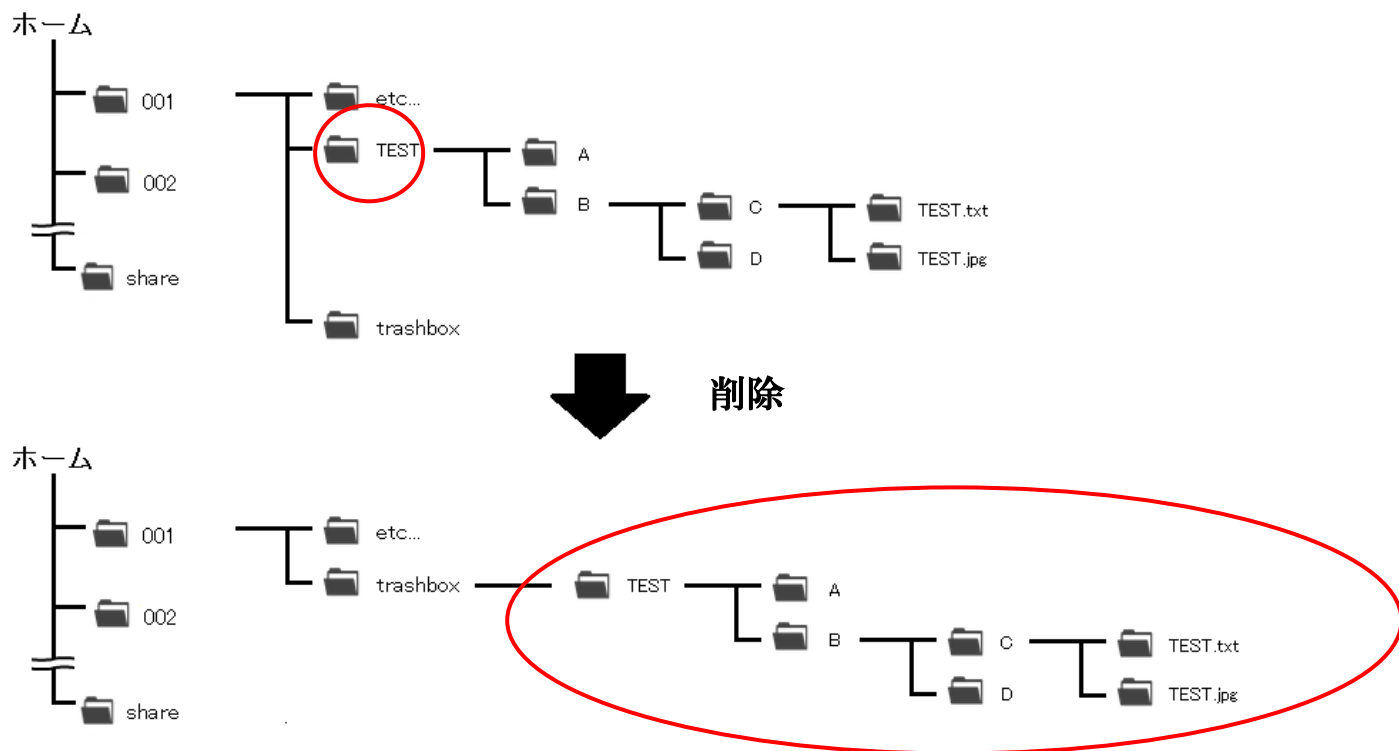


## フォルダの削除について

フォルダを削除した場合、フォルダ内に含まれていた全ての物が「trashbox」内に保管されます。

※ 例外として中身のない空フォルダは「trashbox」に保管されずに削除されます。

下図を例にするとフォルダ「A」、「D」は削除された状態で保管されます



## 共有フォルダ内のデータ削除について

共有フォルダ内にあるファイル・フォルダを削除した場合は、削除を行ったユーザの「trashbox」フォルダに作成され保管されます。

※ 各ユーザ個別にホームフォルダを設定している場合は、削除を行ったユーザにて復旧を行わない限り、他のユーザからはアクセスする事が出来なくなります。



## 権利

[ixMark]は株式会社フェアウェイの著作物であり[ixMark]にかかる著作権、その他の権利は株式会社フェアウェイおよび各権利者に帰属します。

- [ixMark]は、株式会社フェアウェイの商標です。
- マニュアルの内容は予告なく変更することがあります。

ixMark アプリ版 ゴミ箱機能利用マニュアル

発行者 ixMark 株式会社

〒106-0032 東京都港区六本木 5-18-18 プレシヤス六本木ビル 2F

2019年4月1日 第5版発行